

## 令和4年度第2回住吉区区政会議での意見等一覧

### 【当日出された意見等】

#### グループディスカッション

#### Aグループ テーマ：地域の魅力

繁田委員、田中委員、谷山委員、中野委員、梶野委員、渡邊委員

意見等の内容
「住吉」は大阪より古い歴史・文化を有しており、昔からある住吉おどりや神社に関わる魅力が多い中で、まちづくりとどのように繋がれば良いかを模索しているところである。
自転車でもどこでも行けることに住みやすさを感じる。お祭りや、季節ごとの行事や神事など、こどもが小さい頃から郷土愛を育める環境がある。
マンション住人との交流ができていないため、興味を示すような、一緒に融和したいということが分かってもらえるような行事（例えば、町会の運動会、盆踊り大会、餅つき大会など）を開催する必要がある。
コロナ過で行事ができない中でも、大きな行事、大きな祭り、花火大会や小さい餅つき等を復活させながら、ウィズコロナやアフターコロナに向けて新しい行事を実施する必要がある。
少しでもまちを良くしていこうという思いで地域もがんばっているが、社会や地域がどんどん変化している。コミュニティ活動でもっと良くしていきたい。特に地域活動が難しくなっている。
防災の取組は関心を持ってもらいやすいが、日々の交流が難しい。まずはあいさつから始めるなどきっかけづくりが必要。
空家問題などを魅力づくりに転じてみるなど、考えた方を変えていく必要がある。マイナスばかり発想せず、プラスへ転じていくように。
「風かおる道」（都市計画道路天王寺大和川線）がただの駐輪場になってしまった。魅力づくりをするつもりでの整備だったのではないかとがっかりした。ボランティアで整備したいと思っている。
公園や道路の環境美化運動等、緑を大事にしようということもやっているが、通学路の安全確認や子ども見守り活動など高齢化しており、担い手も含め見直していく必要がある。
こどもをターゲットにして色々な行事を進めていきたい。こどもを誘えば、親が出てくる。こどもが喜ぶようなことを中心にやっていければ、親も参加するので担い手の発掘にもつながる。さらにまちの魅力をつくるには、将来を担うこどもたちをいかに育てていけるかが重要であり、大人も一緒にがんばっていくべきだと思う。

Bグループ テーマ：こどもの成長

桶土井委員、鍛冶本委員、島谷委員、辻野委員、山本委員

意見等の内容
キーワードとして①地域、②大人の教育、③楽しく参加できるの3点が挙げられた。
キーワード①地域について 教育に関しては、学校教育だけではなく、家庭での教育、そして、地域の教育というのが非常に大事になってきているのではないかと。要は家庭だけでずっと教育していけるというような時代ではなくなっていると思う。
キーワード②大人の教育について ゆとり世代である親が多いことから、大人に対しても教育を受けられるような場所を提供していく必要があるのではないかと。スマートフォンなどで情報は入るが、自分の都合の良いことのみキャッチするため、大人への研修や講演が必要なかもしれない。また、こどもの問題でなく、その親の問題も多い。無関心な親がいる。 区民まつりなど、大人やこどもが集まれるような場所を、大人が単純に中止するのではなく、やっていく姿勢を見せることも非常に大事なのでは。
キーワード③楽しく参加できるについて 活動や維持していくためには人が必要。 学校やPTAなどの役員は固定されることを嫌う人がいるため、あえてなくして、全員を当事者として行事の都度、参加しやすい方法でお手伝いを呼びかけるとにより人員が増えたケースがある。また、サポーター制度も良いのでは。 掲示板を活用するなど、情報のバリアフリーとして、役員等の一部の人が情報を握って回していくのではなく、みんなで情報共有しながらやっていくと、参加者も増えて、興味を持っていく人が増えていくのではないかと、みんなが楽しく参加できるのではないかと。と思う。
総括して 地域行事に参加しているこどもが、そこに参加している大人を信頼して相談したり、つながることになっていけば良い。そのためには、学校でも、行事でも、楽しく魅力的にしていくことが必要。実行するには人も要るし、アイデアも要る。そこがサイクルになって、つながっていけば良い。

Cグループ テーマ：社会的弱者との共生

佃井委員、浜田委員、濱本委員、東委員、福留委員、和田委員

意見等の内容
社会的弱者とは誰のことで、強者はいるのか。生きづらさを抱えている人というようなニュアンスで受け取って、議論することにした。 実際、障がいを持って、程度によっては弱者ではない、ハンデがあっても弱者ではないという人もいるし、高齢者も普通に暮らしていれば、弱者と言われていてもぴんとこない。
障がい者や高齢者でも参加できる、人を支える立場になり得るということと、見守られるだけではなく、共に関係性をつくるということが、この共生の場という部分ではないだろうか。
違いを認め合う関係性ということで、普段からのつながりであったりとか、弱みばかりに目を向けるのではなく、強みに目を向ければ、その人が生きる上でのポイントになってくるのではないか。
こども110番の家で旗は掲げているが、門扉が閉じていたのでは駆け込めないで、オープンな商店などがあれば良い。また、こども110番だけでなく高齢110番など、何か困ったときに駆け込めるような場所ができれば良いと思う。
高齢者への対応をしようにも、個人情報保護の関係で安否確認の声かけもできないような場面もある。山之内スマイル協議会では、見守り支援システムを進めるにあたり、見守りボランティアに事業所の人たちも一緒になって行っている。事業所も個人情報の壁はあるが、このように地域の中に一緒に入り込んでいく方法もあるのでは。
大阪人はおせっかいな人が多いことから、それを生かし、しんどいときはおせっかいがすごくありがたいので、「大丈夫？」の一言の声かけがあったらいい。
スマホ教室などの場はあるが、年をとれば分かりづらいため、できるほうに合わせるのではなく、できないほうに合わせるということも必要であろうし、デジタル化も大事だがアナログで普通に声かけできるのが一番いいと思う。ちょっと隣の人が声をかけるということが大事ではないか、言葉も大切だということ。
情報を集められるように、高齢者や障がい者も勉強していくということも必要ではないか。また、気さくに声かけできるような地域づくりがすごく大事である。 緊急通報システムなど、申込先や制度そのものを知らない方も多くいるため、何らかの形で伝えていければ良いと思う。
声かけやつながりなど、普段から言われているような近所付き合いも大事であると思う。